

ヒルフェ通信(11月号)

❖ そっと寄り添いやさしくサポート ❖

「公益社団法人成年後見支援センターヒルフェ」は判断能力が不十分な方々の権利の擁護及び福祉の増進に寄与することを目的とした法人です。



◆令和2年度地区連絡協議会の開催を終えて(2-1)

本年9月16日(水)午後、令和2年度地区連絡協議会がコロナ感染防止のためWEB会議方式により開催されました。その概要は前号のヒルフェ通信に掲載済みで、会議の詳細な報告もヒルフェHPに掲載予定です。

この度は、会議報告とは別に、運営側からみた会議の様子等をお伝えして、地区活動等への関心をお持ちいただければと思います。

1 この会議は、プロかと思える寺田理事の司会で始まり、第1部が本部側からの各種説明・報告、第2部が各地区リーダーからの報告・情報交換となりました。個人的には、第2部が会議のメインでは思われるところです。

その第2部。都内全33地区のうち、大きく、第1～第3ブロック(中央、千代田、港、江東、墨田／文京、台東、北、荒川／足立、葛飾、江戸川)、第4～第6ブロック(品川、大田、世田谷、渋谷、目黒／新宿、中野、杉並／板橋、豊島、練馬)、第7～第9ブロック(武鷹、田無、多摩中央／立川、国分寺、八王子、多摩西部／町田、調布、府中)に分けて、出席(今回はWEB参加)の各地区リーダーや代理の地区会員から、順次、話をしてもらいました。

2 総じて、昨今のコロナ禍の影響で地区活動が困難になっている様子です。

(1) 第1～第3ブロックは23区内の都心を含む地区で、地元社協との関係で対応に苦慮している状況が多く報告されました。成年後見に取り組む専門家扱いは三士業(弁護士、司法書士、社会福祉士)が中心という実態があり、東京家裁もその扱いを崩していない現状が源になっている旨です。その中、サロン活動に取り組んだり、ニュースレターを発行したりなど、地道に工夫した地区活動を展開している報告もあり、心強くもあります。お陰で、地元社協から講師の声がかかると、社協の高い壁も少しずつ雪解けが始まっているような状況もみられました。



(2) 第4～第6ブロックは都内23区内の山の手側の地区で、報告の様相が少し違います。定期的な無料相談会を開催したり、地元議員や政党への働きかけがあったり、また社協との関係が良好な地区は中核機関の準備段階の組織への参画も実現している旨の報告もありました。

(3) 第7～第9ブロックは23区以外で都内西側の地域で、羨ましいほどの活動を展開している地区もいくつか見られます。

地元市役所・社協との関係で、中核機関等の委員会にメンバー入りしていたり、逆に社協からの依頼で寸劇実現の経過報告もあった地区もあります。ただ、活動が目される地区ばかりでなく、地元の団地・マンションに1700枚位も電話相談のチラシを配布して、対面相談に変わる新たな形を模索の地区のほか、悲慘なばかりの嘆き節もありで、悲喜こもごもの報告と情報交換でした。

(続きは次号にて—地区・ブロック活動部統括理事 高橋進)

◆ヒルフェTVのご案内

ヒルフェでは、高齢者や障がいを抱えた方々に役立つ様々な情報を、1つの項目につき20～30分程の動画にまとめ、ヒルフェTVとして配信することになりました。

ヒルフェTVは、ヒルフェのほか、アグリマス株式会社、株式会社シンケア(介護事業者)および東京都行政書士会の協力を得て作成しております。アグリマス株式会社は、インターネットによる介護予防プログラム配信事業「健幸TV」、認知症超早期発見・重症化予防のための取り組み「Welln(早期認知症予防センター)」の運営、介護予防デイサービス「東京マルシェ」などを行っている会社で、今回の動画配信には健幸TVの配信プラットフォームを活用してまいります。

11月頃よりヒルフェホームページから閲覧できるよう、現在準備を進めております。